



連載 資産運用「茶飲み話」(7)

岡本 和久



リターン追求とリスク削減は分けて考える

投資をするのであればできるだけ高いリターンをあげたい。しかし、同時にできるだけリスクも小さくしたい。これは誰でも望むことです。そして、リスクをコントロールするためには、投資対象を分散しなければならない。これも多くの方がご存じです。

それで、一銘柄に全額を投資するのではなく、できるだけ多くの銘柄に投資をする。とはいえ、当然、資金の限界があり、まあ、数銘柄買うのがやっとという方も多いと思います。

高いリターンを期待する銘柄をたくさん買ってリスクを削減しようとするのは効率が良いとは言えません。高いリターンを期待するのですから、それらの銘柄はリスクも高いと考えるべきです。確かにそのような銘柄を数銘柄でも持てば、一銘柄で勝負するよりはリスクは削減されるでしょう。でも、何十銘柄も保有できるのであれば話は別ですが、数銘柄では限界があります。この問題を解決するために以下のように考えてはいかがでしょう。

例えば、ハイリターンが期待できそうな銘柄がいくつかあるとします。まず、予定しているおカネの半分でインデックス投信を買います。この部分はリスク削減を目的とします。残りの半分で良いと思う銘柄に投資をします。

インデックス投信は市場と同じような動きをするように設計されていますから、この投信を持つのは市場全体に投資したと同じ効果があります。分散投資を究極まで追求したポートフォリオです。こうしておけば、リターン追求銘柄でリスクを削減する必要は減ります。要するにリターン追求の「攻め」とリスク削減の「守り」を分けて考えるのです。サッカーなどでもそうですが、攻めと守りは役割が違いますし、得意とする分野も違います。同じことが投資でも言えるのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

貯蓄と投資はどう違うか

貯蓄と投資の違いをご存じでしょうか？ひと口に言えば、「貯蓄は、おカネを使わないでとっておくこと」、「投資は、おカネを増やすこと」です。ですから一番、純粋な貯蓄というのは、貯金箱におカネを入れて貯めることです。あるいは、机の引き出しにおカネを入れておくというのも同じです。一方で、投資は、当面、必要のないおカネを、いま、必要とする人に用立ててあげる。その人はそのおカネを活用して収益を得る。そのおカネが生み出す付加価値の一部がおカネを融通してあげた投資家の元に戻ってくる。これによっておカネが増えるのです。

みんなが貯蓄だけをすると経済のなかを流れているおカネが滞留してしまうことになります。一方、投資の場合はそれが何らかの形で活用されるのです。みんなが、ただ、おカネを貯めるだけになってしまったら、経済はまわらなくなってしまいます。

貯蓄は銀行におカネお預けすること、投資は株式や債券、投資信託など価格変動リスクの高いものを買うことだと思っている人もいますが、それは必ずしも正しくはありません。銀行預金だって預金のおカネは銀行がまとめて貸付先に貸しているわけです。だからこそ、少額であっても金利がついてくるのです。

いま、多くの人が資産のかなりの部分を銀行に預けています。それは、意味のないことではないのですが、銀行は当然、貸付先から受け取る金利の一部を自分のものとして受け取り、残りを預金者に支払います。その代わり貸付先がつぶれても銀行が健全なら資産は安心です。言い換えればその分、収益が低いのです。しかし、その低い収益に甘んじているだけではなく、預金のごく一部でも、十分に分散された株式や債券などにしておくと、長期では大きな違いが生じるものです。

将来の自分はいまの自分が支えなければならない時代です。いまと将来の間には長い時間が横たわっています。ですから、その時間を利用して、毎月の収入の一部を投資してゆく。つまり、おカネも働かせて増やしてゆく。それによって将来の自分を支えることにもなるし、また、経済におカネを流して世の中を活性化してゆくの役に立つことにもなるのです。銀行預金のうちの少しだけでも、もう少しリスクの高い、そして、リターンも高い投資をしても良いのではないかと思います。

「しあわせ持ち」の方程式

人生の目的は「お金持ち」になることではなく、「しあわせ持ち」になることです。「富」には内側の富と外側の富があります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

内側の富というのは、心のなかのしあわせ感、満足感です。人生はこの内側の富を最大化するためにあります。外側の富とはモノやおカネです。基本的には外側の富はほとんどおカネに換算することができます。もちろん、内側の富と外側の富はイコールではありません。

内側の富とおカネに換算した外側の富を結び付けるのが「価値観」です。言い換えると、1円がもたらす幸福感です。1円当たりの幸福感が高まるほど、外側の富が同じでも内側の富は増えていきます。逆に、いくら外側の富が増えても、1円当たりの幸福感が下がっていくと、内側の富はちっとも増えません。

1円当たりの幸福感というのは「品格」ということだろうと私は考えています。同じ1万円でも、霜降りステーキを食べるのと、発展途上国の子供のフォスター・ペアレントになるのとどちらが本当の意味でしあわせをもたらすでしょうか？何が自分に本当の幸福感をもたらすかを考えるためには、自分自身の心の内側を眺めてみる必要があります。

内側の富は「インサイド・ウェルス」ですから「I」、外側の富は「アウトサイド・ウェルス」ですから「O」、1円当たりの幸福感は価値観ですから、バリューの「V」とすると、以下のような方程式がなりたちます。

$$I = O \times V$$

当社、I-O ウェルス・アドバイザーズの「I-O」はこの方程式からとったものです。当社のキャッチフレーズ「目指そう品格ある資産家」というのは、外側の富を増やすと同時に、品格を磨いていくことが、人生において非常に大切であることを意味しています。品格を高める、そして、品格のある資産運用を行い、その成果を、品格を持って使っていくことが本当のしあわせ持ちになる道なのです。

無料セミナーは本当に無料？

銘柄や、セクターの推奨や、どんな投信を買ったら良いかというものから、投資や資産運用の考え方や手法に到るまで色々な情報が氾濫しています。覚えておいていただきたいのは、「ただの情報はない」ということです。無料セミナーは決して無料ではないということです。

証券会社や銀行などが入場無料のセミナーなどを開催します。立派なホテルで、おみやげまでついて……。これには大変なコストがかかっています。主催者は企業ですから、当然、このセミナーによって何らかの見返りを期待しています。だからこそ、膨大な経費がかかってもこれを実施しているのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

では、その見返りは何かと言えば、投資商品の販売というケースがほとんどでしょう。例えば、「新興国経済の今後」という講演があると、その会社は、それとなく新興国関連の投信を勧めてくる。「今後の為替市場動向」という講演があれば、店頭では外貨建て預金のキャンペーンをしていると言った具合です。

確かにあなたは会場の入り口ではお金は払わないでしょう。でも、参加者全体としては、このセミナーのコストを十分すぎるほど負担しているのです。仮に、セミナーにでても、誘惑に誘われないで何も買わなかったとします。その場合は、確かにあなた個人の金銭的な出費はないのですが、言い換えれば聞いてもあまり意味のない講演を聞き、時間というコストを使ったということになってしまいます。

一方、完全に独立した企業によるセミナーもあります。これは有料です。その代わり、「下心」なしで、投資家にとって本当に有益な情報を提供します。結局、主催者のためになる情報にコストを払うか、投資家のためになる情報にお金を払うかという選択なのです。